

名古屋ゆかりの直木賞作家
—ハードボイルドの世界—
大沢在昌小説展

◆7月22日(水)～9月6日(日)
◆展示会場:文化のみち二葉館
2階展示室5・7
*入場無料
(要入館料)
※最終日のみ
午後4時まで
協力:(株)大沢オフィス



「スタンド硝子アート作品展」
～桃と桃～

◆10月3日(土)～10月12日(月)
※関連企画
「文化のみち・スタンドグラス探訪ツアー」
◆実施日:10月4日(日)(入館料無料日)
◆集合場所:文化のみち二葉館
第1回 10:30～ 第2回 14:00～
◆会場:文化のみち二葉館、カトリック主税
町教会、市政資料館、陶磁器会館、
文化のみち榎木館
◆ツアーガイド:伊藤喜雄氏(歴史ナビの会)
◆お申し込み・お問い合わせ:
文化のみち二葉館 TEL 052-936-3836
※先着25名様

文化のみち二葉館「名古屋まつり」

10月4日は入館料無料
開館時間を延長し(10時～19時)、当日
は終日入館料無料といたします。

「白壁の文士たちⅢ
—佐藤一英の足跡—

◆10月20日(火)～11月22日(日)

「歩こう!文化のみち2009」

◆11月3日(火・祝)
今年も多彩な催しが行われます。

貞奴愛蔵品展

12月初旬予定

NEWS LETTER
ふたば便り
Vol.9
2009年9月5日発行



写真上:「ふたばの日」に来館者のみなさんへ一筆ずつ墨入れをいただいた後、画家・柳瀬辰久氏が描きあげた「彩雲」がおひろめされました。
写真下右:「まるはちの日」には、来館者に冷抹茶もふるまわれました。

今年の2月8日の「ふたばの日」に文化のみち二葉館は、開館4周年を迎え「貞奴甚句」が大広間で華やかに演奏されました。集会所では来館された方々が記念に屏風に墨入れをし、後日、「彩雲」という作品に描きあげられました。4月26日には、貞奴が建立した貞照寺で、「貞奴甚句」が奉納され、6月には、桃介ゆかりの関西電力より当館に三色桃の苗木が贈られ邸内に植樹されました。(探してみてください!)

開館5年目、「二葉館」の魅力あれこれ

明治・大正のはやり唄の実演、呈抹茶が行われ大盛況となりました。貞奴・桃介関連、城山三郎はじめ郷土ゆかりの文学者資料などますます見所満載の二葉館、そして文化のみちです。ぜひ、お立ち寄りになつてご覧ください。



EVENT REPORT イベントリポート

でら文藝曼茶羅〜やわらかく文学を語る会〜

参加作家:吉原清隆氏、墨谷渉氏、広小路尚祈氏、8月23日(日)の午後2時から二葉館大広間は地元在住若手作家の鼎談と、その後の中日本純音学組合の豪華キャストによる演奏と歌で、熱気に包まれました。ここに掲載するのは、今回のイベントのために広小路氏に寄稿していただき、当日、会場で配られたものです。

「でら文藝曼茶羅」やわらかく文学を語る会」開催に寄せて
デラックス文藝猫背編集長 中日本純音学組合理事 広小路尚祈
魂を常に自由な状態にしておくこと、これは簡単なようで難しい。人間というものは無意識のうちに何かに縛られたり、何者かが設定した正解に寄り添おうとしてしまうものです。私はそれから逃れるために、友人と共に「デラックス文藝猫背」という小さな文藝冊子を立ち上げました。この冊子は「作者の自由な創作を保障する」という考え、すなわち「猫背精神」に基づいて制作しております。興味のある方は「でら文藝曼茶羅」やわらかく文学を語る会」の会場で、創刊号を三十部限定で無料配布をさせていただきますので、どうぞお手にとり取ってください。
私はこのイベントで、持ち前の猫背精神を十分に発揮し、自由な議論の中で、様々なものを混ぜ合わせ、面白い「文藝界曼茶羅」を織り成したいと思っております。皆様もぜひ、肩の力を抜いて、ご自分のスタイルでご参加ください。



写真上/左より、広小路氏、墨谷氏、吉原氏
写真下/鼎談後には、豪華キャストによるライブ演奏も
右より清水良典氏、勝野おかり氏、広小路氏、墨谷氏、吉原氏

貞奴甚句(本調子)

作詞・作曲 華房真子

- √ここはお江戸の葎町や
目元千両の娘あり
その名は名妓 アー 奴なり
登上〜と世を渡る
- √千歳の波でアメリカへ着けば
グレイトワンダフル 世界を馳せし
アー道成寺 女優一号 貞奴
- √梅にうぐいす ささやいて
誰か恋しい色もみじ
十四才の春のアー 桃の華
二葉御殿で 咲かせます
- √川上渡る涼風に
舞うや、堂の心意気
輝きますぞえ アー芸のみち
あなたゆえなら なおさら
- √人の運命は乙なもの
昔葎町 今二葉
両風、嵐アー ものとせず
なんと見事な女伊達
- √夢のつり橋渡りまよ
木曾の三留野の夕暮れに
呼ぶのは大井
アー貞照寺 不動心なる貞奴

川上貞奴に捧ぐ

貞奴甚句奉納

貞照寺 渡邊千永

本堂の中に護摩供の煙がまだ漂っている中、三味線の心地よい音色と共に、「ここはお江戸の葎町や 目元千両の娘あり...」と七五調の小気味の良、歌声が響き渡ったとたん、堂内に張り詰めていた空気が一瞬にして溶けて流れて、思わず手拍子を打ちたくなりましたのは、私ばかりではありませんでした。

「奴」時代、貞は芸者芝居に熱中、浜田家に近い「友楽館」という演芸場の開場式で「曾我討入」の五郎役を演じ、毎年暮には慈善芝居をやっていた事実など、後年女優一号になる素地は十分に持ち合わせていました。

約百年前に音二郎四回、貞奴は三回バリエを訪れています。アメリカからイギリスを経て、ヨーロッパ各地を巡演等、ベルリンでも成功を収め、「ニューヨーク・ジャーナル・アンド・アメ

リカン」紙の見出しには「奴、ベルリンも魅了」と絶賛されました。まさに「グレイトワンダフル」なのです。
昭和三十五年、成田山名古屋別院が管理するところとなり「金剛山桃光院 貞照寺」から「成田山貞照寺」に変わりましたが、寺内各所に桃の御印があり、貞奴の愛したもみじありと、お寺建立にあたって二人三脚の心意気が随所に現れています。
貞照寺本堂、回廊の堂羽目の彫刻は困難に遭遇した折、お不動様のご加護によって救われたという、貞奴の人生の中での苦悩を乗り越えた思いが刻彫されていますが、一枚は大井ダムの完成を祈っている姿です。
貞奴甚句には超一流芸者時代、開拓精神が花開く女優時代、後年は実業家として、女性として、一本道を生き抜いた証が見事に描かれています。素晴らしい「貞奴甚句」が広く歌い継がれて行きますこと、心より御祈念申し上げます。

文化のみち情報BOX

マチ歩き 暮らし発見
～軒下はミュージアム～

- 9月15日(火)～23日(水・祝)
- 会場:文化のみち榎木館
- 関連企画:
●9月19日(土)10時～15時
「東のまち」のフィールド・ワーク・ショップ
募集人数:先着20人 ※9月11日(金)10時から文化のみち榎木館で電話受付
●9月22日(火・祝)13時～16時30分
シンポジウム第1部「地域文化を考える」
第2部「古い写真でマチのフィールド観察」

きもので遊ぼう!～名古屋帯編～

- 10月2日(金)～4日(日)
- 会場:文化のみち榎木館
斬新なデザインのアンティーク帯から現代のものまでを、奥座敷に展示します。
- 関連企画 「きもの断」
10月3日(土)14時～15時30分
着物と名古屋帯の合わせ方や少し手を加えた、自分なりの楽しみ方をお話します。(講師:水野聖子)
- お問い合わせ:文化のみち榎木館
TEL 052-939-2850
HP www.shumokukan.city.nagoya.jp



NEWS LETTER
ふたば便り Vol.9

発行日 2009年9月5日
発行 文化のみち二葉館
【名古屋市旧川上貞奴邸】
〒461-0014 名古屋市東区榎木町3-23
TEL&FAX 052-936-3836
http://www.futabakan.city.nagoya.jp

※この冊子は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。